

第5回 交野市総合教育会議

日 時 平成28年2月25日(木) 9:00～

場 所 交野市立青年の家1階 教育委員会室

出席者 市長、八木教育長、羽石教育長職務代理者、中井教育委員、森脇教育委員、亥埜教育委員、
(事務局)坪井部長、盛田部長、船戸教育次長、高寄課長、後藤課長代理、良部長、苗村次長、南課長、
福田課長、吉田

傍 聴 2名

市長 挨拶

事務局 公共施設の建設年度別延べ床面積と、公共施設の総合管理計画及び学校規模の適正化についての資料説明

市長 説明はお聞きの次第であります。なお、先ほどの棒グラフでこれまでの公共施設の整備状況、公共施設の中でも特に、この会議で皆さま方に課題を共有させていただくということでいきますと、公共施設のお大半が小学校・中学校である。子ども達にとっては、まず学ぶための学び舎でありますから、この学び舎そのものが質の高い教育に直結する、課題であると考えております。ちなみに過去における生徒数、先ほどの資料でも平成17年以降、そして平成45年までの小学校・中学校の今後の児童数を市長戦略の中で掲載させていただいておりますが、昭和50年代でこの当時、小学校で約8,600人、小中併せて11,600人という生徒数を有しておりましたが、それがいまして、そうした子ども達をしっかりと学んでいただくという学び舎整備というものが、昭和50年代半ばまでまち全体で取り組んできた。直近の平成27年の小学生の児童数は、先ほどの資料にも掲載しているが、4,300人ということで、昭和55年比でほぼ半分になってきている。かつ今、4,000人ということであるが、今後数年たっていけば、4,000人を切ってくるだろうという予測でございます。あわせて、今後の推移ということでご理解いただきたい。説明をお聞きいただいて、ご質問、ご意見等ございますでしょうか？

森脇 ということは、小学校の児童数の推移というのは、現状の住宅を基にして予想しているのか？極端に言えば、大型マンションの建築とかそういったものは、ないだろうとして見ているのか？

市長 特段、社会変動と言うものは、特にこの中には盛り込んでいない。当然、地域的にいくとそういった増減は、あり得る話だと考えている。ただ、オーダーとして例えば、これが1,000人台で変わるということは、あり得ないだろうと認識していただきたいですし、大きなマンションが建築されたということで、ある学校区について若干増えるということはあるとしても、トータルとして、ピークで8,000人を超えていましたね、今現在、4,000人ですよ、これがまたさらに、5,000人台、6,000人台になるということはないということ。大きな流れでとらえていただければと考えています。

中井 意見ですけども、今までお話をお聞きしているのですが、この交野市長戦略ということで、市長のお考えということで、学校規模の適正化をこういう風に進めていくということで、これは、あくまでも市長のお考えという適正化の考え方ということで、いいわけですね。教育委員会は教育委員会で我々、ミッションに基づく適正化のキーワードがある訳ですから、それは今後協議していただけるということですから、あくまでもこれは、市長戦略の中での学校規模の適正化をこういう方向でどうですかというご意見ということによろしいですね。これで今後の審議会も含めて進んでいくということではないわけですね。

市長 おっしゃるとおりです。

中井 了解です。

市長 現状、これまでの推移と今後の見通しについてのお話と、今、中井委員からもご指摘もありました、それを踏まえて、今回、市長戦略としてこう考えますということでございます。市長部局といたしましては、以上の状況から、社会潮流をしっかりと受け止めて、今後、教育委員の皆さま方と課題をしっかりと共有をし、計画的にそして、またタイミングを逸することなく、学び舎の老朽化対策、リニューアルというものを進めてまいりたいということでございます。ご理解いただければと思います。したがって、先ほど、市長戦略の中でもタイムスケジュールと言いますか、今後の適正化にかかるどのような工程と申しますか、進めていくのかということをお示しさせていただいておりますが、あくまで、そのようなかたちで、進めさせていただけたらと言うことでございます。直近で行きますと平成 28 年、我々と教育委員会を含めて、しっかりとこの問題についての課題整理をしながら適正化ということでございますが、単に数を最終的にこのようにしましようということであったとしても、基本的な方針、考え方というものを整理しなければならないなという意味で、平成 28 年におきましては、検討委員会の設置と言うものを考えておりますし、またその中で、教育委員の皆さま方にも認識いただく中で、ご理解いただければ、学校教育審議会の中でも具体的に議論いただくということを新年度にスタートさせていただければということ。今日のところは、改めて、これまで教育大綱の中で、学び舎については、今後、市長部局と教育委員会とともに取り組んでいまいしょうという基本的な共通の認識をさせていただきましたが、今後の具体的な進め方について、改めて、市長戦略としての位置付けをまず皆さま方にご説明させていただき、ご理解をいただく中で、今後また教育委員会の方で、ご議論を頂けたらと言うのが私からのお願いというか、教育会議でご理解いただきたい内容でございますので、よろしくお願ひしたいと思います。今後の工程につきましても、当然、教育長も含めまして、それぞれの役割分担の中で、できるだけ、効率的な検討機関の中で、しっかりと課題を整理してご議論いただくと。単に老朽化、子ども達が減ってきました、で、ぼん、ぼん、ぼんと最終的に減らしていきましようかということの間にやはりどういった規模が適正であるのかどうかという基準、方針を持たなければ、最終的な結論ありきということであっては、今後、一番関わるのは、今後もまた学校へ通われる子ども達、地域の方々、ご家庭の方々にもご理解をいただかないといけません。その基準づくりというところが、当面、大きな課題になってくるのかなと考えております。

いずれにいたしましても、教育委員会の中で、課題の抽出なり、議論をしていただいて、できるだけ市民の皆さまにご理解をいただけるようリニューアル計画を進めさせていただけたらと考えております。

本日の公共施設等総合管理計画と学校規模の適正化という議題につきましては、私の方からは以上でございますが、総じて何かご質問等はございますか。

中井 進め方について話があったが、もう少しはっきりしておく必要があるのではないかと思います。学校規模の適正化は、統廃合も含め、教育委員会の権限です。一般的には審議会に諮り、いわゆる交野市における学校の適正化とは何ぞや、というところを審議いただいて、教育委員会に答申をいただいて、教育委員会が判断すると。当然、その中には市長の行政としての考え方はあると思いますが、学校規模の適正化というのは、我々教育委員がミッションとして受けておるのは、子供の形が最優先ですよということ。公共施設の老朽化とか再配置ということ、そういうこととの兼ね合いというのは交野市のモデルの問題であって。大前提として、適正化がどうあるべきかという教育委員会の議論と、市の公共施設の再配置との、市のファシリティーマネジメントとの兼ね合いをどうするかということは当然あっていいことですが、その辺をはっきりしておかなければ、今のお話ではどこでそういう議論をするのか、というようなことが分からなかったので、進め方をもう少しはっきりしておく方がよいのではないかと思います。

それを検討委員会で検討していくのか、学校教育審議会の位置づけはどうか、教育委員会の判断の位置づけはどうか、この辺りをきっちりと整理していただく、この議論はどこですということ、もう一度ご説明いただくか、その辺りも今後の検討課題にするのか、そのあたりはどうかなのでしょう。

もう一つは、キーワードとして、学校は子供と先生だけのものではないということが今後の大きな課題になってきている。それは、一つは地域が学校で学ぶということを昨年の中央審議会での答申においてもはっきりと出ている。学校と地域の結びつきが非常に重要になってきている。そのキーワードは市長戦略には入っていないが、我々が学校に求められている課題は、地域との結びつきの中で増えてくるということであれば、そういうことをどこで議論していくのか、いわゆる老朽化と再配置と、学校の子供が増えた、減ったということ、コミュニケーションの問題と、学校の在り方をどうするのかということも併せてしていかなければならない。

こういったことも含め、28年度に検討委員会を設置というようなスケジュールについても、議論する必要があるのではないかと思います。このことに反対している訳ではなくて、きっちりとしていかなければ、市民の皆さんのご意見もお聞きしていく中で、大きな齟齬が発生しないためにも、手続きや議論はきっちりとしておく必要があると思います。

市長 事務局から説明をお願いします。

事務局 中井委員がおっしゃいました教育施設であっても地域との関わりというのが重要視されてきているという点、他市では学校施設の中にコミュニティー施設を併設・統合されているというところも見受けられます。そういった中で、公共施設等総合管理計画と言いますのは、教育部局・市長部

局トータルとして、交野市としての公共施設をどうしていくのか、というようなことを方針としてとりまとめないといけないということでございますので、学校教育審議会はもちろん学校の教育施設の今後の方向性、在り方について議論をしていただくということですが、その前段で、市長部局の施設と教育委員会の施設と十分に連携しながら、どう進めていくのかということは、事務局であったり、検討委員会であったり、市長部局でも審議会というのは設けていきますので、きちんと前段で調整し、たたき案的なものを作り上げた中で、学校教育審議会、市長部局での審議会に諮らせていただいて、ご意見を頂戴する中で、さらに検討を進めていくというやり方を教育委員会事務局と想定しているところです。

また、新年度に入りましたら、教育委員会部局でも、施設のあり方を検討していく専任の組織の設置ということも検討をしておるところでございますので、市長部局と連携をとりながら進めていきたいと考えておるところでございます。

また、必要に応じまして、総合教育会議の場でもご意見を頂戴しながら進めてまいりたいと、事務局の方では考えておりますので、よろしくお願いいたします。

中井 追加で、中央教育審議会の答申というのは、ハードとして、空いた学校教室をどう使うかということ、これは前からの議論ですが、答申というのはソフトとの連携というところで、一段違う話になっているので、また一度見ておいていただきたい。

亥埜 資料の最後にある「大規模な延命措置若しくは建替えの時期に」とありますが、延命と建替えでは10億以上の差が出てくる、市としては、どちらの方向に考えているのでしょうか。

市長 そのあたりも含めて、これから具体的に検討を進めていきたい。今の段階で、どちらの方がいいのかということになりますと、当然、財政的な事情はあるにせよ、同じ費用をかけるのであればということもあります。車に例えるならば、新車に買い替えるのか、今よりも高機能の車にするのか、色々な考え方があろうかと思っておりますので、今の段階では、どちらの方を優先するのかということにつきましては、その建物の状況にもよりますし、延命することでその効果が十分に発揮されるというものであるならば、そういう形もとっていくことになろうと思っておりますが、延命しても10年か15年程度しかもたないというのであれば、やはり学び舎というものはずっと続いていくものと考えていくと30年、40年という先を見据えて大規模な形でいくのか、などこれから議論をしていかなければならないと考えております。

亥埜 それを聞いておかないと、こちらも予算を承認する中で、どれだけの費用をかけて、もったいないのではないかなど、ある程度の方針を聞いておかないと、こちらも承認するうえで。

市長 逆にこの枠でやってくださいというような話には至っていない。当然今後の財政状況もしっかり見すえながらということになりますし。ただ例えばやはり学び舎として同じやるならば「こうした方がいいのではないか」というご意見なりご提案も、我々も教育委員会からしっかりと、またこの場であるとか、事務局を通じてとかいろんな形で、いろんな取捨選択・手法論におけるキャッチ

ボールをさせていただきたいと思っています。

森脇 この計画でいくと、平成 32 年度に整備事業が始まるように計画を進めていくとなっているんですけど。ということは 4 年後から整備計画、5 年以降になると思うんです。どちらにせよそこから始まることをイメージすると、今みなさんが問題にされている雨漏りの問題であるとか、数年前からそういった問題が起きている中で、そんなに長い期間ほったらかしにしておくのかということなると思うので、できるだけ早い期間で結論を出して、しないといけないんだろうなということと、どうしてもこの年数がかかるのであれば、その対応をどうするのかということも早いうちになんらかの結論を出して。こどもの安全面に関わることで、みんなすごく危惧していることでもあるので。

市長 まったく同感です。ただ、当然一定スケジュールをお示ししていますが、今後どうなるかわからない。その間にほったらかすのかという不安がある。当然その間であっても、学び舎としてしっかり学んでいただく、子どもたちの安全にかかわる部分についても、建て替えや改修の時に全部いっぺんにやったらきれいになるじゃないかということであっても、その間ほったらかすのかということについては、その都度、その課題について、いずれ改修を大規模にするということであっても、その問題を放置できないことについては、限られた予算の中でも対応していかないといけない。ただ、できるだけ早い時期にきれいにしてあげれば、それに越したことは無い。森脇委員のご指摘については、私もまったく同感であります。何もこのスケジュールありきで、急がせることはあってはならない。ただ、子どもたちのためには、早い段階でそういった方針を出して、具体的な改修に踏み出せば、それが子どもたちにとっては一番いいことだと思っています。

羽石 今まで、学校の統廃合を含めどういった風になるのかと、危惧していたわけでありました。前教育長からいろんな話を聞いていたわけではありますが、今日、市長から自らこれからのプラン・方向性のお話が見えた。どういうことで進んでいくのかが、ある程度見えたのが大変ありがたかった。これをキックオフしたことになるかと理解するわけですが、1 つは、最初のグラフにあるように、長年、交野の公共施設建設はやってなかった。これは財政難ということで、とにかく新しいものを作るとはやめよう。その弊害が今あるというのも、理解できるわけでありました。そこで、亥埜委員の方からお話がありましたように、今、財政課健全委員会の方で、どういう風にその財政面を考えるかということをやっているとは思いますが、その財政計画とこの公共施設の建設というのを併せて見えるような形で今後、説明していただくことが、我々が考える上でありがたいです。もう一点、今、教育委員会の中では、生涯学習大綱というのを作る動き、準備が進んでいます。先ほど中井委員の方から、やはりこれからは、地域と学校の共同体制というのが非常に言われている段階ということもあって、この青年の家も大分老朽化しているわけですが、これも今後どうするかということも、大きな問題となっています。また学校施設も老朽化が大きな問題となっている。そうすると、将来の構想としては、学校だけでいいのか、学校の建物と生涯学習の機能を併せて考えていくべきなのか。こういう、もう少しそういったことを一体化して考えていく、そして地域との結びつきを考える。そういったことを含めながら少し広く、学校の教育委員会だけでなく、広い

意味で検討をしていただけると非常に、交野全体の将来像も見えてきていいのではないかと思います。

中井 もう一度議論の原点に戻って確認をしておきたいのですが、先ほど森脇委員からもありました通り、学校の安全安心につきましては非常に重要な課題であるということでございます。いわゆる重要な課題であるということは非常にシンプルに例えば、もう古い学校から直していくんだと。そういうところが一番市民に理解されやすい。当然、それまでの財政の問題もありますことから、直すというか、建て替えが必要であればということです。昭和39年設置の交野小学校が、建て替えが必要ということであれば、市としても財政計画と絡めて建て替え計画をつくっていく。その中で、例えば、地域との関連性を加味していくという基本的な考えかただったらいいんですが、いわゆる学校の適正化という問題と、公共施設、国の方からも公共施設の見直しということも要求されているわけですし、それはただ単に立て替えということだけではなく、もっといろんな有効活用を考えたらどうかと言うことを考えて、それに乗っかって考えていることと思うのですが。そういうふうな問題と、教育上の学校規模適正化という問題とどこでジョイントするのかということの後問題にしておかないことには、先ほど安全安心の問題と言われましたが、安全安心の問題であったら、もっとシンプルに交野小学校から順番に財政に応じて作り変えていきますよということが一番市民に理解されるわけですし、市民も私と同じように思われる。したがってこの辺の原点をはっきりしておかないと、学校規模の適正化といわゆる公共施設の更新と最初から市長戦略の中で引っ付けておられるのかということをはっきりと整理しておかないと、あとあと問題が出てくると思います。安全安心の問題だとおっしゃられるのであれば、交野小学校から順番にやっていきますよと。なんでそうしないんですかと言われた時に、例えばどう答えるのかということ踏まえて、整理しておかないと。私は学校規模の適正化と。これは施設の有効活用と一致できればこれにこしたことはない。うまく地域の方々と希望に沿ったものであれば、交野モデルということで、日本中から見学に来られる施設ができる可能性も考えられる。それは、スタートラインをきっちり整理しておくことで効果が生まれるものであって。

無理をすると、失敗例として残る可能性も秘めているものであって。ものごとの計画というものは、最初原理原則というものをきっちりしておかないと、あとあと、これは民間であっても同じですが。無理をすると問題がある。例えば安全安心だったら誰が考えても交野小学校から作り変えていきますよと。なぜそれをしないんですかと言われた時に、きっちりと対応できる議論、考え方、基本を構築する必要がある。なので、私は学校教育審議会を含めて、この中で、例えば他の市ではアンケートを取られたりされております。議論をきっちりとしながら、ということであれば、平成32年が安全安心のスタートが、平成32年では遅いように思いますが、ただ、議論の成果物が平成32年ということはあるかもしれませんが、森脇さんがおっしゃった安全安心が平成32年以降ということであればいいのかどうかということも、これもまた議論する問題であろうと思います。安全安心の議論なのか、学校規模の適正化の問題なのか、いわゆる公共施設の有効活用の問題なのか、そうした議論を整理してしかるべききっちりと責任を持って対応をする体制を取るのがよいと思う。

市長 このまま議論を深めていきたいとは思いますが、この後、定例の教育委員会がでございます。本日

も色々なご意見、ご提案もいただきました。すべて今後の検討の中で、最も大事な視点であると思っております。羽石職務代理者の方からも、財政の見通しも含めた中でのなはしであるし、学校というだけでなく、生涯学習という視点からも青年の家もどうなんだと。或いは学校の機能の点から言っても、今後リニューアル、整備する場合は、生涯学習機能として学び舎が利用しやすいような作りを考慮しなければならない。そういった基本的な視点。そういったことをこれから、どんどん出していただく。まさに中井委員から出されたように、どこに主眼を置くんだという基本的な視点。ここをまずしっかりと出して、その中から学校の状況、状況に応じて、優先順位でありますとか、財政も含めてどうしていくか。それこそ、最終亥埜委員がおっしゃられたように、その時のお金のかけ方はどうなんだと。こういったことはそこにすべて集約されてくると思いますから、当面は基本的な視点。考え方。市長部局、そして教育委員会として、しっかりとそれぞれの守備範囲の中での話をスタートさせていただくという風にご理解いただけたらと思っております。どうぞ、よろしくをお願いいたします。協議の方を決して打ち切るというわけではございませんが、委員の方もこの後定例教育委員会があるということでございますので、今日のところはこの程度に留めさせていただきたいと思っております。また、今日、頂きましたご意見も市長部局、教育委員会事務局ともしっかりと整理をさせていただいて、今後の進め方も改めてお示しをしたいと思います。

森脇 前に進めていくための具体的な案を教えてください。

船戸 案でございますので、その点をご了承いただきたいと思っております。

来年度、学校規模の適正化室ということで臨時機構として室を設ける。これは、市長部局と教育委員会との連携を図っていく上で、こうした室を設けることで、より密接な関係が保たれると考えております。5月の定例教育委員会に学校教育審議会の諮問事項として議案として提出していただきたい、同時に6月に学校教育審議会に対し、学校規模適正化に向けた諮問をしていただく。同10月に答申を頂き、11月には定例教育委員会の方に報告をいただき、来年3月に学校規模適正化基本方針を策定するという予定になっております。同時に29年の9月には学校施設整備計画を策定という大まかな取組みスケジュールを考えております。

市長 それでは、次第②につきましてはこの程度に留めたいと考えます。続きまして、その他案件として1点私の方から。先般、学校現場の先生が逮捕されるという事件が発生しました。この件につきましては委員の皆様をはじめ、私も都度報告を受けておるところでございますが、今日この場でも改めまして、今回の事件の状況につきまして、教育委員会事務局より報告をお願いしたいと思います。

高寄 旭小学校の件につきましてご説明いたします。去る2月18日、旭小学校、育休臨時講師が児童ポルノ禁止法違反により神奈川県警に逮捕されました。それを受け、翌19日に午後7時から保護者集会を開催いたしました。当日は朝から指導主事2名と市のカウンセラー、大阪府教育委員会からも指導主事、府のスクールカウンセラーにお越しいただきまして、児童のケア、教職員体制の確認、保護者集会の運営に努めました。この保護者集会は、166世帯が参加されました。その中で

は、当該教員がどのような教員であったのか、また旭小学校の児童が撮影されたのではないかと
いった不安の声が上がりました。容疑は今回、公然陳列ということですので、そのような事実は確
認されておりません。

教育委員会といたしましては、児童のケアのために、3月末まで主事のカウンセラーを学校の方
に派遣して、児童のケアに努めてまいりたいと考えております。何からの訴えのあった児童はすべ
て記録を取りまして、最後までケアするなど、子どもたちのことを最優先に考えて対応していき
たいと考える。

市長 恐らくこの件につきましては、教育委員の皆さま、注視しながら適切な対応をしていただくとい
うことになると思いますが、ただいまの報告で何かあるでしょうか？

森脇 臨時講師の採用で、これまでの素行と言った部分で、あがってこなかったのか？

高嵯 教育委員会でも面接もいたしましたし、履歴も確認いたしました。そのような事実は確認でき
なかつたので、採用させていただいた。

教育長 臨時講師と言えども採用条件は、クリアしていないと採用できないので、そういった条件は、
クリアしている。そうでないと採用できない。

森脇 大人であるし、色々な経歴がある中で、そういうことができる人というのは、何らかの形で出
ているのではと感じたもので…

中井 交野の先生の中で、講師の方はどれくらいいるのか？

高嵯 いま資料がないので…

中井 担任をされている方は？どれくらいいるのか？

高嵯 半分はいかないと思いますが…。講師でも担任をしないとけない欠員状況。

中井 継続者は？

高嵯 手元に資料はないので…

中井 大阪府の状況は？

高嵯 大阪府は、高いと思われる。

中井 講師であるかないかという選択肢は交野にあるのか？

高嵯 正規の教員を確保すると児童数が減った場合にどうするかが課題となるので、ある程度、欠員を保ちながら児童数、生徒数の状況を見ながら採用している。

中井 教員の場合は、10年に1回、大学で勉強したり事業改善も蓄積があるが、講師はどうなっているのか？

高嵯 教員免許については、講師についても更新しないといけない。我々も講師については、授業を見たりして採用している。

森脇 大きな問題がある前には、小さな問題が起こっていることがある。周りの先生でも小さなことがなかったのかと思うところもある。これからの問題として、小さな問題を見過ごすことで、大きな問題になるという反省ができれば、学校内においてもいい学びになるのかなと思う。

中井 生徒の評価はどう？

高嵯 保護者の声として、この講師は、中学校の教諭であるので、少し専門的で小学校には難しいという声もあった。

市長 まずは、子ども達がしっかりと平常心で学校へ通っていただけるケア、今後の再発防止策ということにかかわる、人材の登用や日々のマネジメントと言う部分も含めて教育委員会で今後、ご議論いただけたらと思う。必要であれば、教育会議でもご議論させていただければと思います。
他に何もありませんので、これで教育会議を終了させていただきます。

※本議事録は、テープ起こしではないため、一部不正確なところもあるかもしれませんが、ご了承ください。